

# 企業ニュース SCREENホールディングス

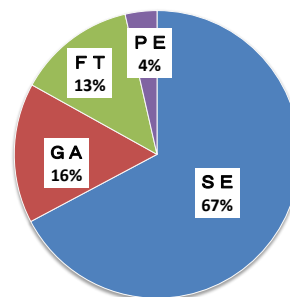
(東証1部 : 7735) <http://www.screen.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

## 大手半導体洗浄装置メーカー

◇18.3期売上高構成比

1937年に石田旭山印刷所の写真製版用ガラススクリーン研究部門が独立し、大日本スクリーン製造所として設立、1943年に大日本スクリーン製造、2014年に現社名に変更した。国内大手半導体製造メーカー。半導体製造装置事業（SE）は洗浄装置で高いシェアを持つ。グラフィックアーツ機器事業（GA）はCTP（Computer to Plate）装置やデジタル印刷機などを製造。ディスプレイ製造装置および成膜装置事業（FT）はフラットパネルやリチウムイオン電池の製造装置を製造。プリント基板関連機器事業（PE）はプリント基板の製造装置などを製造する。世界シェアトップの製品としては半導体向け枚葉式洗浄装置（2017年世界シェア39%）、同バッチ式洗浄装置（同49%）、同スピンスクラバー（同69%）、CTP装置（同33%）、フラットパネル向けコーターデベロッパー（同69%）などがある（シェアなどはHP掲載資料より）。



(出所) SCREENホールディングス  
資料よりCAM作成

## SE、2020年の市場再成長を予想

18.3期・第2四半期（4-9月）の連結業績は売上高が1,701億円、前年同期比11%増、営業利益が152億円、同10%減。SEがメモリー向けに伸長し増収も、自然災害などの影響もあり変動費率が上昇し減益となった。一時的な調達混乱なども収益を圧迫した。第1四半期決算では上期業績予想を売上計上などで前倒しが想定されるとして上方修正したが、一転未達となった。SEの受注状況は高水準であった前下期比較では減少したが、7-9月期実績は580億円、前年同期比48億円増、前四半期（4-6月）比74億円増と高水準を確保している。

19.3期の会社計画は売上高が3,740億円、前期比10%増、営業利益が435億円、同2%増。上期計画に対する実績などを勘案し、従来計画から売上高で100億円、営業利益で95億円の下方修正。メモリー中心に投資計画の延伸などで、主要製造装置メーカーで下方修正が続いているが、当社はメモリー最大手向けの比率は低く、その影響は同業他社より軽微と想定できよう。業界団体が12月11日に発表した半導体製造装置市場予測は2020年は20.7%増と過去最高を再び更新する。

### [株価動向・投資判断]

受注状況、2020年の市場予想などから業績の再拡大を期待したい。株価は昨年度末の水準から半値以下に下落、底打ち反転が期待できよう。

<7735 スクリン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益	1株配当
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円	円
17.3	300,233	(16)	33,731	(43)	32,019	(38)	24,168	(28)	512.0	87.00
18.3	339,368	(13)	42,725	(27)	41,329	(29)	28,507	(18)	608.6	110.00
19.3 予	374,000	(10)	43,500	(2)	42,000	(2)	30,500	(7)	653.8	155.00



[主要株価指標]		(売買単位: 100株)
株価(2018/12/14)		4,945 円
年初来高値(高値日)		10,700 円(18/3/13)
同 安値(安値日)		4,840 円(18/12/14)
予想 P E R (19.3 予)		7.6 倍
1株株主資本(PBR算出用)		3,761.8 円
P B R		1.31 倍
予想配当利回り		3.13 %
(1株当たり配当金155.00円)		
R O E (18.3)		18.2 %
発行済み株式数		5,079 万株